

スコール・マスターズ通信

第33号
平成21年7月29日

平成21年度 会員総会・宿泊研修を開催 自己開発ツールによるワークショップを実施

6月13～14日の2日間の日程で、平成21年度マスターズ会員総会および宿泊研修を箱根湯本ホテルにおいて開催。全国から50名(初参加10名を含む)の会員が初夏の箱根に集い、充実した時間を共にしました。

会員総会

代表幹事に小俣富雄氏が就任



13日(土)は宿泊研修に先立ち、会員総会が行われました。以下に、総会において審議された議案の概要をご報告いたします。

① 昨年度の事業報告および収支決算を承認

事業報告では発足当初(平成14年)は170名であった会員が期末(本年3月31日)には400名になったことが報告されました。

② 平成21年度事業計画および収支予算を承認

個別の取り組み事項は下記のとおりです。

- ・今後とも会員の増加と各地区の組織整備を図る。
- ・危機管理事例集第3集の発刊・配布(宿泊研修の参加者には当日お渡しすることができました)
- ・新年度の検討・開発テーマである自己開発システムの一部披露と意見聴取(宿泊研修にて)
- ・第9回川上杯ゴルフコンペ及び御嶽山滝行の実施

③ 小俣氏、新代表幹事に

三橋克興代表幹事から健康上の理由で退任の申し出があったため、小俣富雄副代表幹事が代表幹事に就任しました。



研修Ⅰ：禅&ボイストレーニング

心身のリフレッシュを

会員総会のあと直ちにトレーニング姿に着替え、心身開発トレーニングへ。第一部はリラクゼーション禅を行いました。初体験の方は別指導を受けながらの挑戦です。小川本部長と小俣新代表幹事から左右の肩に当てられる警策の痛みを味わいながら30分間の瞑想に入りました。そして、第二部はボイストレーニングです。「気持ちよくリフレッシュした」「結構疲労感がある」「爽快になる」等々の感想の中に、参加者の満足そうな顔がありました。

懇親会：交流のひとつき

横田さん、傘寿のお祝いも

入浴後は懇親会を開催。初参加の10名の方から自己紹介、中国地区の横田さんの傘寿のお祝いの余興もあり、マスターズの仲間との楽しい交流のひとつとなりました。懇親会のあとは個室で二次会を開き、永池会長も顔を出されました。

早朝研修：演壇・講話・広間座談

4名の演壇に感動と共感

翌14日(日)は5時30分から早朝研修です。小俣代表幹事の発声で「生命への覚醒」を唱和、次に瞑想、それから4名の方の演壇がありました。それぞれ実体験に基づいた素晴らしい内容で、参加者の心は感動と深い共感につつまれました。その後、「宗教に頼らない、日本型の生きる上での哲理」をそれぞれの人間がどのように見出していくかという観点から永池会長の講話があり、広間座談へ。永池会長が参加者の質問と意見に答えられて早朝研修を終了しました。(演壇の内容を次頁以降に掲載しています)

研修Ⅱ：ワークショップ

自己開発ツールを体験・評価

朝食後、ワークショップを開催。参加者を4班に分け、自己開発システム研究チームが開発中の自己開発ツールを使い、自分の性格・ストレス状況・父親度をチェック。今後役に立つ自己分析をするとともにグループディスカッションを行い、自己開発ツールについて討議を行いました。ディスカッションの終了後、各班を代表して40歳代の方から討議内容を発表。発表者は、川西昭彦氏(中国)、能勢泰人氏(中国)、藤田和弘氏(中央)、関直樹氏(八王子多摩)の4名でした。発表された討議内容は今後の自己開発システムの開発に役立つ意見となりました。



ご参加をお待ちしています

日常を離れ、普段とは違う充実感を味わった2日間でした。宿泊研修の内容も年々レベルアップしています。今年にご参加いただけなかった方も、来年は是非、ご参加下さい。

マスターズ宿泊研修

「早朝演壇」より

子供の長所を把握しよう(教育の現場から)

中国地区 川西昭彦



箱根でのマスターズ宿泊研修には今回で四回目の参加となりました。全国から集まった方たちからさまざまなことを学ばせていただく、ありがたい機会となっています。この場に立たせていただいたこと

は、地元でお世話になっている横田将良様はじめ、マスターズの会員の方々のおかげと感謝いたします。また、今回の研修に快く送り出してくれた家族にも感謝したいと思います。

私は中学校で英語の教員をしており、今年で十一年目となりました。現在勤務している学校では今年度から主任の役割を与えられており、日々任務を進めています。

普段、中学生と関わる中で、特に意識していることの一つに生徒の長所を把握することがあります。以前、永池会長より、あなたは生徒一人一人の長所が言えますか?と問われ、ハッとしたことがありました。長所の出てくる生徒もいれば、出てこない生徒もいて、はい、と答えることができませんでした。長所の出てくる生徒は、リーダー的存在だったり、係や当番の仕事をし、授業で積極的に発表したりと、よい生徒ばかりでした。反対に長所の出てこない生徒は、問題行動をよくする生徒、そして日頃目立たない生徒でした。会長からご指導をいただいてから、見方を変えれば短所も長所になることを意識して、言葉がけを行ったり、通知表の所見欄で長所やがんばったことだけを記入するようにこころがけました。

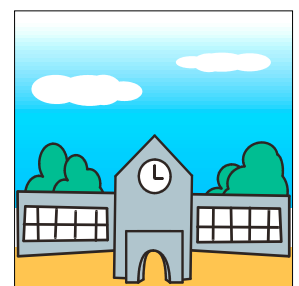
先日、「ある保護者が私のことを話していたよ」と、他の先生から聞くことができました。「先生が子どもを担当してくれてよかったです」という内容に、教師の仕事をしていてよかったと思った瞬間でした。その生徒は一年生の時に、友人関係や親子関係でうまくいかず、大変不安定な日々を過ごしていました。二年生で私が担任に決まった時は不安でした。実際、一学期が始まった頃、「何で私はこのクラスなの。友達

がないからつまらない」という発言ばかりで、他の先生方もその生徒のことを心配していました。しかし会長からの言葉を思い出し、長所を見つけてほめるように心がけたのです。

一学期の通知表の担任の所見欄には「学級委員として、クラスのために頑張っていますね。ありがとう」と書きました。すると、母親から、このようなことを書いてくれたのは先生が初めてです。子どもは喜んでいました。良い所を書いてくれる先生はめったにいない。という言葉を送りました。その後は友達もでき、私が困っている時には、すばやく察して助けてくれたりと、いろんな場面で協力してくれました。高校受験の時悩んでいる時、一番行きたい高校に受かるイメージで過ごそうと励まし続けました。卒業式で私が卒業証書を渡す時、ありがとうございましたと、涙を流しながら言ってくれました。生徒は無事第一志望の高校に合格しました。

五月五日のNHKラジオ番組で永池会長が話された「お父さんの十か条」の中に「子供の長所を把握しよう」という項目があります。生徒たちは自分を見てほしいというメッセージをいろんな形で発信していることに気付けるようになりました。以前は友達をいじめる、服装を乱す、先生の指示に従わない、たばこを吸うなどの行為に対して、どうしてそんなことをするのかとただ詰め寄ったり、頭ごなしに指導するだけでした。今では、その背景にあるものを考えながら生徒と接するようになり、家庭のことが背景にあることがほとんどだと気づかされます。現在は担任ではないのですが、若い先生方に伝えることで、生徒の長所をたくさん見つけられる先生が増えればと思っています。

今後もマスターズ研修やスコーレで学んだことを家庭はもちろん、職場でも活かして、厳しい世の中でも強くたくましく、そして自分も相手も大切にできる生徒を育てていきたいと思いません。そして、私自身も、毎朝出勤時に車が見えなくなるまで見送ってくれる家族を大切にしたいと思いません。



胃がんを克服して

青葉・都筑ブロック 霜田千代松



平成5年10月、長女が3歳、長男が生後3ヶ月、私が40歳の時の事でした。私は建設会社で工事監理者の立場でしたので、当時は銀行のビル建設工事の実務責任者として携わっていました。間もなく11月末にはビルが竣工するという時に、体調をくずして医師の診察を受けました。内視鏡での検査の後、すぐに説明があり直径15ミリ程の「がん」が見つかったとの事でした。ショックを受ける間も無く、担当医の先生から内視鏡写真を見ながら、手術の方法について丁寧に説明していただいたこともあって、私は冷静に聴くことが出来ました。「早期のがんで場所もはっきりしていますから、胃の三分の二を摂ることはなりますが、転移の心配も無く大丈夫ですよ」とのこと。私は現実をありのままに受け入れて先生の云う通りの手術をお願いすることにしました。

妻が駆け付けて来た時には、妻と子供たちへの思いと、ビルの竣工を前に職場から離脱しなければならない事に、ただ無念のあまり悔しくて涙が出てきました。上司に電話口で病名を告げると、上司は電話の向こうで絶句したようでした。私は冗談とも本気ともつかず「こんなことでしたら、もっとビールを飲んでおけばよかったですよ。ご迷惑をお掛けします」とお詫びしました。上司は「あとのことは心配しないで治療に専念し、直して早く戻って来い、復帰を待ってるから」と言ってくれました。（その上司とは縁があって偶然にも、別の会社ですが同じビルで勤務しています）手術の翌日からは腸の癒着を防ぐ為に歩行運動です。「早く家族の待つ家に帰りたい、職場に復帰しなければ」との思いから、痛みを我慢しながら動きました。幸いにも順調に回復し、他に転移もなく、約3週間後には完治・退院、それから1週間後に職場に復帰することができたのです。

その1年半後には、会社の業績不振から出向勤務を打診されました。銀行のビル建設の時にお世話になった銀行の担当の方が私を推薦、指名してくれたと聞き、私は望まれ必要とされたことをありがたく受け入れて出向しました。そして出向先の会社の要望もあり、そのまま転籍し新たな職場環境を得たのです。それから5年後、再び建物新築の仕事に就きたいという思い

から退職しました。そんな時に建設会社に勤めていた頃の先輩から望まれ、建物新築工事と維持管理の両方に携われる現在の不動産デベロッパーの会社に勤めることになったのです。

私は妻を通してスコールにめぐりあい「感謝する・感動する・共感する」ことを学びました。振り返りますと「人は一人では生きられない、支え、支え合って生きている」「今まで他人からやってもらったことのナント多かったことか」「たくさんの人達の力添えと家族の絆があって今の自分が在る」ことに改めて気づかされました。特に3人の小さな子供を抱え、妻の心中は大変だったことでしょう。何よりも転職の時の妻の理解と協力があって、現在の家庭があることに感謝しております。

マスターズでは3人の子供達の成長の時期に丁度合致して父親としての学びができ、3人の子供達からは部活動を通して感動・共感を貰いました。子供達にも感謝です。これからも物事を多面的に捉え自らを成長させること、「心身開発講座」「人生学講座」「滝行」「募金活動」と諸先輩の方々の様々な体験指導を通じてマスターズの皆様と共に学ぶことに感謝いたします。

私は永池会長の著書“こころの添え木”と“生き方の基本”を早朝研修で学ぶたびに新たな発見と感動を覚えます。3人の子供達がそれぞれ成人する折には彼らに贈り、持たせようと決めています。毎日の早朝研修の継続と早朝研修で唱和する「生命への覚醒（めざめ）」「道標」を心にとめ、「今日一日」「今日一日」を大切に前向きにそして社会に貢献できるように生きていきたいと思っております。そして本日はこの機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

当面の行事予定

- 8月2日（日）
心身開発コース（スコール会館）
- 8月23日（日）
人生学コース（スコール会館）
- 9月初旬
メールニュース第60号配信（IT委員会）
- 9月6日（日）
心身開発コース（スコール会館）
- 9月13日（日）
人生学コース（スコール会館）
- 9月21日（月）～23日（水）
第12回滝行（木曾御岳山・新滝）
- 9月下旬
マスターズ通信第34号発行予定（広報委員会）

父からもらった言葉『努力』

大阪・兵庫ブロック 平田保則



スコーレマスターズ宿泊研修の早朝研修の場で演壇できますことを、たいへんありがたく、このような機会を与えていただきました皆様に感謝申し上げます。

父からもらった言葉『努力』、

私の父は本年1月17日 阪神大震災と同じ日に他界いたしました。昨年10月に脳梗塞で意識を失い、3ヶ月余り植物人間状態でした。延命治療をするかどうかについて、母親、妻、姉夫婦、親戚、そして永池会長にご相談させていただきました。医師からは「99.9%意識が回復することはない。延命治療をすると、長い人で7～8年寝たきりの人もいる」との事でした。母の通院介護に伴う心労のことを考えると、点滴による栄養を徐々に減らし、来るべき時を待つ。永池会長からは「何が、大切なのか。最終決断は、長男のあなた自身」とアドバイスをいただき、医師に徐々に栄養を減らしていくことをお願いしました。この父から小学校当時にももらった言葉は、父の口癖、そして父自身も実践していた『努力』の2文字でした。今となって思うと私はこの父の言葉に導かれていたと思います。父のおかげでここまで来れたと思っております。

私が小学校5年生の時、姉(次女)が交通事故で亡くなりました。それまでは、あととり息子ということで、両親に勝手気ままに育てられていた私でしたが、この事をきっかけに父は一転して厳しくなったのです。亡くなった姉は当時バレーボールが大変な人気で、オリンピックを目指してクラブ活動に励んでいましたので、両親はその成長を楽しみにしていました。3人の子供の中でしっかりと目標をもち、最も努力家の次女を亡くした両親は、大変ショックだったのでしょう、今度は私を立派にと、今までとはうって変って、厳しくしつけられました。時には往復ビンタももらいました。中学生の時、悪友に誘われそうになった時、高校生の時も同じく、父に正しい道に導いてもらいました。そして高校を卒業し現在の職場に就職する時も、叔父がいるということで、現在の職場の試験を受け、合格・採用されることになりました。

私は妻に勧められて、スコーレの学びを始めてから、10年ぐらいになると思います。平成12～14年にかけて、職場での成績優秀ということ

で表彰を受けたのですが、平成14年の人事について「努力して、結果を出しても、報われない職場」と上司に不満を口にしてしまいました。そして永池会長にご相談させていただいたところ、「自分だけが仕事をしたと思っているのでは。他人もあなたの知らないところで、結果を出しているのでは。しかし、その努力はいつかは、実ります。まだ、熟す時期ではない。あきらめず、成るを待ちなさい」という言葉でした。それから5年。平成19年の人事異動では、2ステップアップの、管理職に就くことが出来ました。この人事はいわゆる抜擢人事でしたが、現在はその抜擢人事が正解か否かを、試されている状況だと思えます。従いましてその人事に結果を出さなければと考えております。この抜擢人事を得ることができたのも、スコーレの学びのおかげです。また『努力』の2文字をくれた、父のおかげです。

“生命への覚醒(めざめ)”での一節「父母の恵によりて生を享けたり」を学ばせていただき、実践できたことをうれしく思います。「心が変われば、行いが変わる。行いが変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる」スコーレの学びのおかげで、私自身の運命を変えることが出来ました。今後ともスコーレの学びを続け、人生において、大輪の花を咲かせ、優秀な部下を育てていくという果実を熟して見せます。どうもありがとうございました。

編集後記 神崎夢風先生の「体質改善 1分間チェックシート」を付けています。その日の食事等をチェックし、体重等の変化を記録。やり始めてみれば、「間食」「運動」の欄に×が連続。×を一週間連続させたのち、間食をやめ、運動を始めました。自分と向き合うことは、変化のきっかけを作るようです。今回の宿泊研修でも「自己発見」のプログラムを体験し、自分と向き合うことの大切さを学びました。自己改革にあたり、何に気付くのか、次に何をどのように実践・継続するのが大きな課題となってきます。今後ともスコーレやマスターズという学びの場を大切にしたいと思えます。さて、私の体質改善に話を戻せば、あとは実践と継続ということに…何事も学びと心得て、頑張ります。(白石 英樹)

編集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ 広報委員会

発行人：小俣富雄
〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12
TEL：042-707-4500
<http://www.schole-masters.org>